

# 人工魚礁漁場調査

小柳津伸行・他海幸丸乗組員

## 目的

本県渥美外海沖合域に設置されている魚礁群漁場の利用実態，魚礁群における集魚種の分布および漁場環境の把握を目的として，前年度に引続き調査を実施した。

使用船舶 漁業調査船 海幸丸 88,81トン  
 作業船 はつかぜ 3.65トン  
 漁船 文盛丸（師崎漁協所属） 2.8トン

漁具 餌釣 ムツ鉤14～16号 2～3本付き

## 方法

調査期間 昭和61年4月～昭和62年3月

サビキ釣擬餌鉤 5～6本付き  
 餌料 餌釣 スルメイカ，サバの切身，

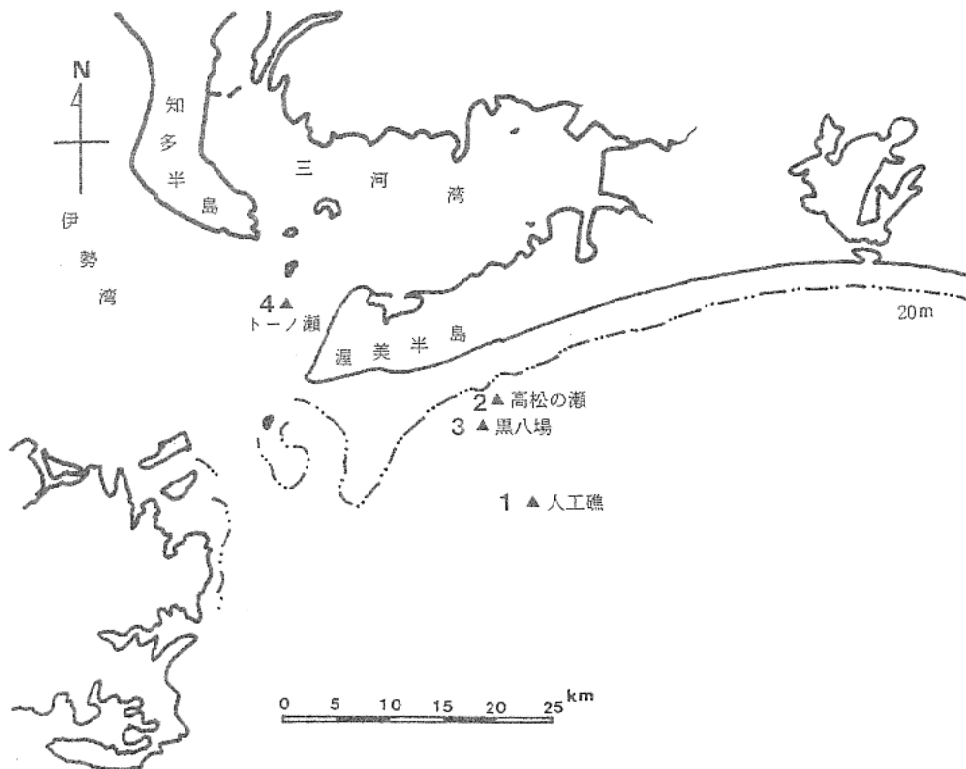


図1 魚礁群漁場の位置

サルエビの活餌  
サビキ釣 散餌（イワシのミンチ、オキアミ、その他）

- 調査魚礁
1. 人工礁漁場（70m線）と沈船礁漁場（75m線）
  2. 高松の瀬漁場（大型魚礁群）
  3. 黒八場漁場（大型魚礁群）
  4. トーノ瀬漁場（大型魚礁群）
- の4群で図1のとおりである。

## 結果

### 1. 魚礁群漁場の利用実態

漁海況予報観測、漁場調査等のため渥美外海を航行時に、魚礁漁場とその周辺での漁船の操業実態調査を実施した。この時に確認した漁業種類別操業船隻数を表1に示した。

#### (1) 人工礁漁場と沈船礁漁場

一本釣漁船は、5月、7月、9月と11～12月にかけて操業船を確認した。また周辺海域では、毎回底びき網漁船、7月にはアマダイを対象のこぎ刺網漁船、回遊魚のシイラを目的の延縄漁船の操業が視認出来た。

#### (2) 高松の瀬漁場（大型魚礁群）

当該魚礁漁場では、水温上昇期の4月下旬頃から、11月の水温下降期（20℃）まではアジ、サバ、イサキ、カンパチ等を目的とした一本釣漁船を、多い時には1日に12隻視認した。また、底びき網、しらす船びき網、刺網漁船等の操業も視認した。

#### (3) 黒八場漁場（大型魚礁群）

一本釣漁船の利用状況は、6～11月にかけて1日6～15隻程度の漁船が視認され、高松の瀬漁場より利用隻数は多かった。

#### (4) トーノ瀬漁場大型魚礁群

4月下旬頃から10月にかけてアジ、サバ、メバル等を対象にした一本釣漁船が1日2～18隻利用していた。

### 2. 漁場環境調査

人工礁漁場、高松の瀬漁場（大型魚礁漁場）の月別水温、塩分量を表2、3と図2に示した。

#### (1) 人工礁漁場

表層水温は、4月の13.7℃から昇温し、9月には26.4℃と最高水温を示し、その後順次下降し、62年3月には、15.6℃を示した。また底層の60m層では、4月14℃台から始まり9月には18.7℃と最高となり、62年3月には11.7℃の最低を示した。

塩分量については、7月に32.9%と低い値を示したがこれは湾内水の張出しによるものと思われる。その他の月は、33.5～34.9%台で推移した。底層では変動が少なく、34%台が持続された。

#### (2) 高松の瀬漁場（大型魚礁群）

表層水温は、4月には12.1℃であったが次第に昇温し、8月には26.0℃と最高水温を記録した。それ以降は降温し、62年2月に最低水温を示した。底層水温は、5月に16.7℃を示し、次第に昇温し7月～10月にかけて20℃以上を維持した。

塩分量は、表層で6月に内湾水の影響により30.6%と最低を示した以外は32.8～34.6%で、底層は33.8～34.5%で変動が少なかった。

### 3. 魚礁漁場における釣獲による集魚状況

魚礁漁場別魚種別釣獲尾数と重量は表4、また、多獲魚種について、その体長範囲とその平均体長を図3に示した。

#### (1) 人工礁、沈船礁漁場

同礁では、一本釣漁獲調査は4～12月の間に7回実施した。釣獲魚種はサバフグ、カサゴ、アヤマカサゴ、マサバの他に2種の計6種類であった。このうち7回の調査で毎回出現したのは魚礁度（川名 1959）の大きいカサゴ類の50尾（33.6%）であったので、この種はほぼ周年集魚していると思われる。サバフグについては7回目の12月10日に78尾



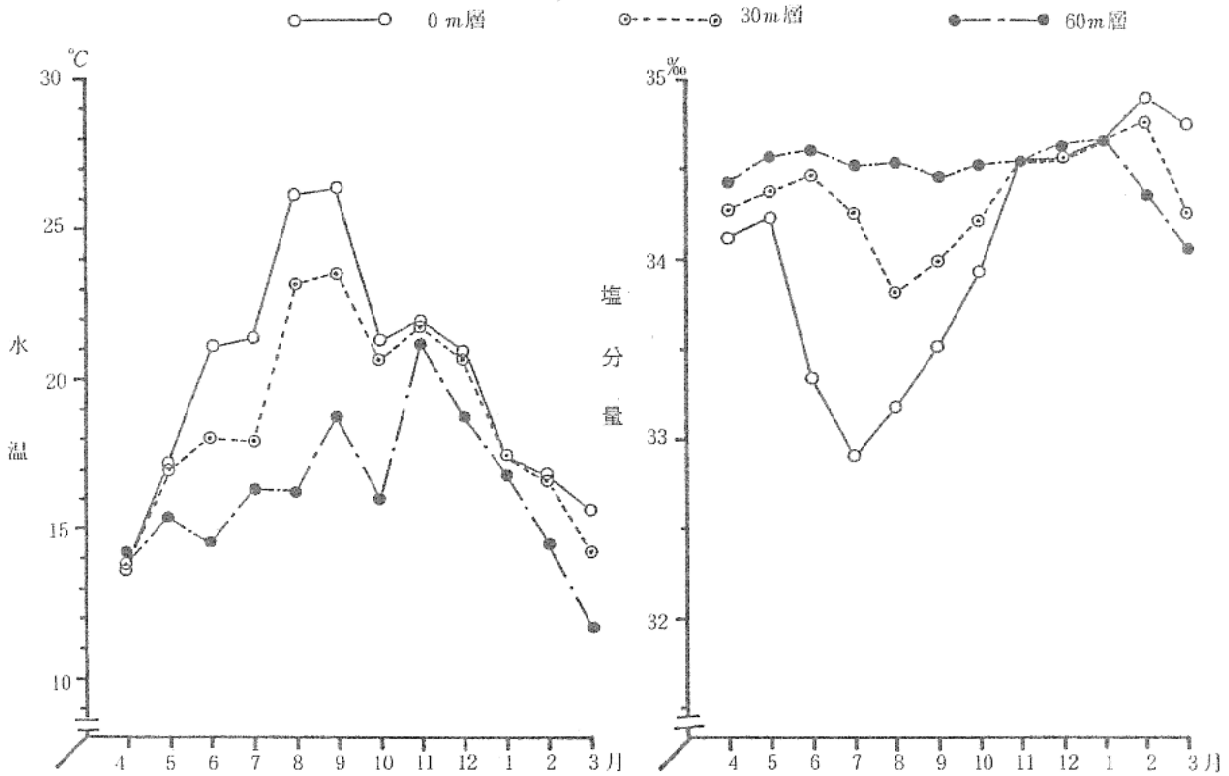
表 2 人工礁 海洋観測結果表

所 項 目	月 日	4月3日	5月7日	6月2日	7月2日	8月11日	9月8日	10月13日	11月13日	12月1日	1月6日	2月2日	3月5日
時 刻		12:38	15:05	15:54	12:43	15:11	15:09	15:18	12:55	15:28	15:04	17:30	13:07
天 候		c	b	c	b c	b c	b c	b	c	b c	b c	r	b
風向・力		E 3	WSW 4	SE 3	SE 3	S 3	SW 2	NW 5	NNW 2	NW 6	NW 5	WNW 4	NW 3
気圧mb		1021	1006	1007	1002	1012	1007	1011	1020	1021	1018	1012	1010
水温 °C		13.5	17.0	20.0	20.5	24.5	25.0	19.5	15.0	12.0	9.5	7.0	13.0
水色・透明度		4・14m	4・20m	4・14m	5・12m	5・8m	4・15m	4・17m	4・17m	4・17m	4・19m		4・18m
0 m		13.70	17.30	21.10	21.40	26.20	26.40	21.30	22.00	20.90	17.40	16.70	15.60
10 m		13.50	17.02	20.03	21.95	25.56	25.58	21.46	22.03	21.19	17.64	17.00	15.47
20 m		13.51	17.11	19.20	18.77	24.14	24.84	21.47	22.02	21.03	17.58	16.96	15.20
30 m		13.81	17.03	18.10	17.96	23.19	23.60	20.67	22.02	20.61	17.25	16.91	14.22
40 m		14.13	16.49	16.12	17.17	20.37	22.24	18.21	22.02	19.98	16.96	16.44	12.26
50 m		14.29	15.91	15.12	16.61	17.15	19.90	16.65	21.97	19.18	16.84	15.19	12.01
60 m		14.30	15.45	14.52	16.34	16.17	18.78	16.03	21.21	18.72	16.86	14.24	11.73
0 m		34.12	34.24	33.35	32.91	33.18	33.52	33.93	34.56	34.59	34.66	34.90	34.75
10 m		34.12	34.19	34.11	33.56	33.18	33.83	33.91	34.56	34.57	34.66	34.76	34.75
20 m		34.17	34.33	34.37	34.11	33.70	33.83	33.91	34.56	34.57	34.65	34.76	34.71
30 m		34.28	34.38	34.48	34.23	33.82	33.99	34.22	34.56	34.57	34.67	34.76	34.27
40 m		34.38	34.56	34.60	34.31	34.16	34.08	34.30	34.56	34.54	34.68	34.77	34.17
50 m		34.42	34.58	34.55	34.47	34.38	34.31	34.49	34.53	34.56	34.66	34.41	34.72
60 m		34.44	34.58	34.60	34.52	34.53	34.46	34.52	34.53	34.63	34.66	34.37	34.06
所 定 層													
水 温 °C													
塩 分 ‰													

表3 高松の瀬 海洋観測結果表

所	月	日	時刻	天候	風向・力	気圧mb	水温℃	水色・透明度	0 m	10 m	20 m	0 m	10 m	20 m	塩分‰
	4月	3日	14:25	b c	ESE 4	1020	13.0	5・10m	12.10	11.67	13.80	33.42	33.57	34.30	34.30
	5月	7日	13:18	b c	NW 3	1006	19.0	5・10m	17.40	16.80	16.77	33.83	34.13	34.43	34.43
	6月	2日	14:07	c	SSE 2	1008	19.5	5・9m	19.80	17.63	18.33	30.65	33.31	34.50	34.50
	7月	2日	16:15	c	SE 4	1001	20.5	5・9m	22.20	21.92	20.67	33.42	33.55	33.87	33.87
	8月	11日	13:18	b c	S 3	1013	25.0	4・16m	26.00	24.79	23.17	33.49	33.62	33.89	33.89
	9月	8日	13:26	b c	SSW 2	1008	25.0	5・7m	25.70	24.29	21.92	32.84	33.59	34.07	34.07
	10月	13日	13:27	b	NW 5	1010	19.5	4・16m	21.40	21.39	20.55	33.83	33.81	34.05	34.05
	11月	13日	14:59	c	NW 2	1019	13.5	4・11m	20.50	20.25	19.54	34.52	34.49	34.46	34.46
	12月	1日	13:30	b c	WNW 6	1021	12.0	5・13m	19.30	19.46	19.48	34.40	34.38	34.38	34.38
	1月	6日	13:25	b c	NW 5	1017	9.0	4・17m	17.20	17.40	16.62	34.67	34.64	34.56	34.56
	2月	2日	13:56	c	ESE 4	1014	8.0	5・11m	12.00	11.89	12.26	3.93	33.89	34.21	34.21
	3月	5日	14:47	b	NW 3	1010	14.0	5・7m	13.90	13.75	12.84	34.58	34.56	34.35	34.35

人工礁漁場



高松の瀬漁場

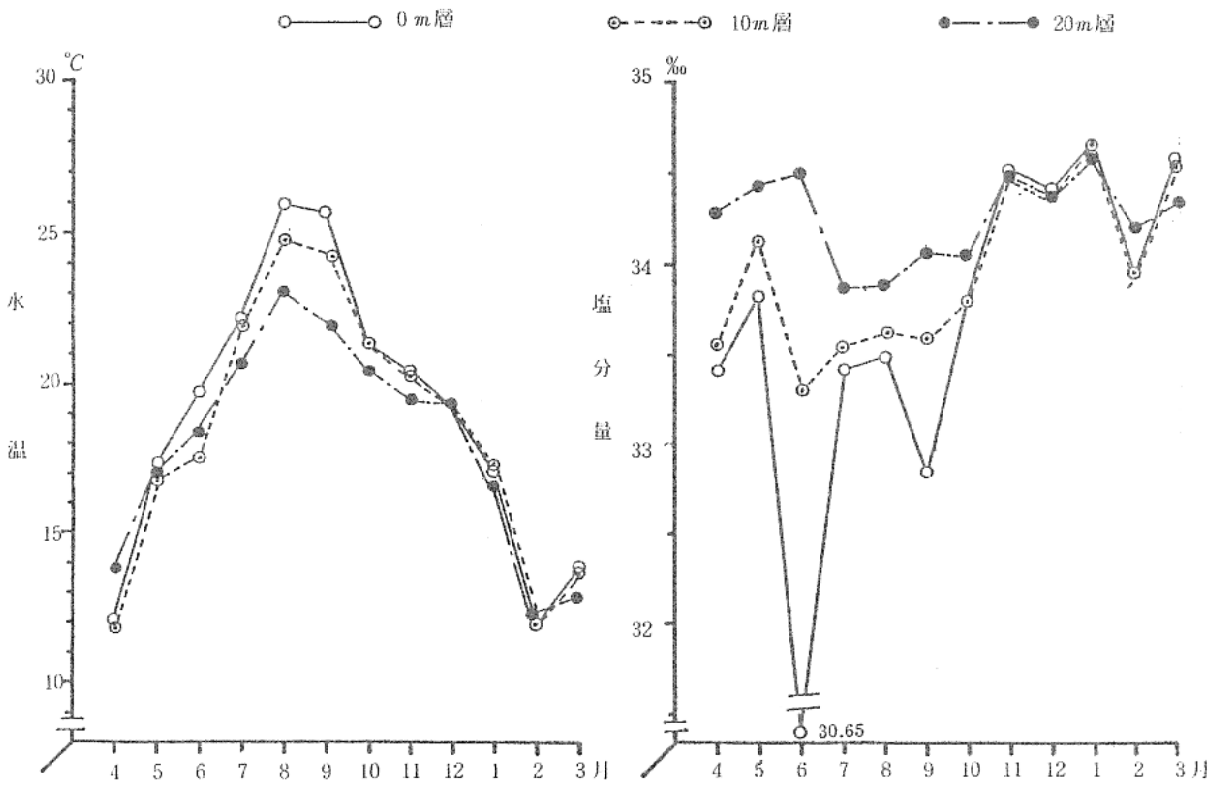


図2 人工礁・高松の瀬漁場の月別水温、塩分変動

表4 昭和61年度魚礁別魚種別釣獲尾数と重量

魚礁群 調査回数	人工礁・沈船										高松の瀬					黒八場					トーノ瀬											
	1	2	3	4	5	6	7	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	1	2	3	4	5								
月日	4.21	5.13	5.26	6.12	7.14	8.25	12.10	7.14	7.24	7.14	7.24	8.12	8.25	8.12	8.25	9.25	10.6	10.15	10.6	10.15	9.25	10.6	10.15									
魚	カ ア マ マ マ	6 2	3 1 7	1 1 5	1 1 9	6 7 4	2 1	81 3	168	26	2	168	26	1	40 186	67 398	15 569	67 67	17	1	15	95	67	17								
種	ム マ ウ ウ サ	ル ロ シ ブ サイ メ キ	ア ア イ ア イ ッ サ バ ウ セ	ジ ジ ラ リ バ キ ル ン	ヤ マ ト カ マ ス	ム シ カ レ イ ソ ボ ツ ハ キ グ	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1								
計	8	4	26	11	13	6	81	180	26	2	42.983	3.590	270	533	697	697	79	28	1.515	1.160	7.965	2.515	2.925	1.960	49.672	16.581	15.294	22.001	2.193	1.088		
備考								文盛丸	文盛丸		文盛丸	文盛丸	文盛丸	文盛丸	文盛丸	文盛丸	文盛丸	文盛丸	はつかせ													

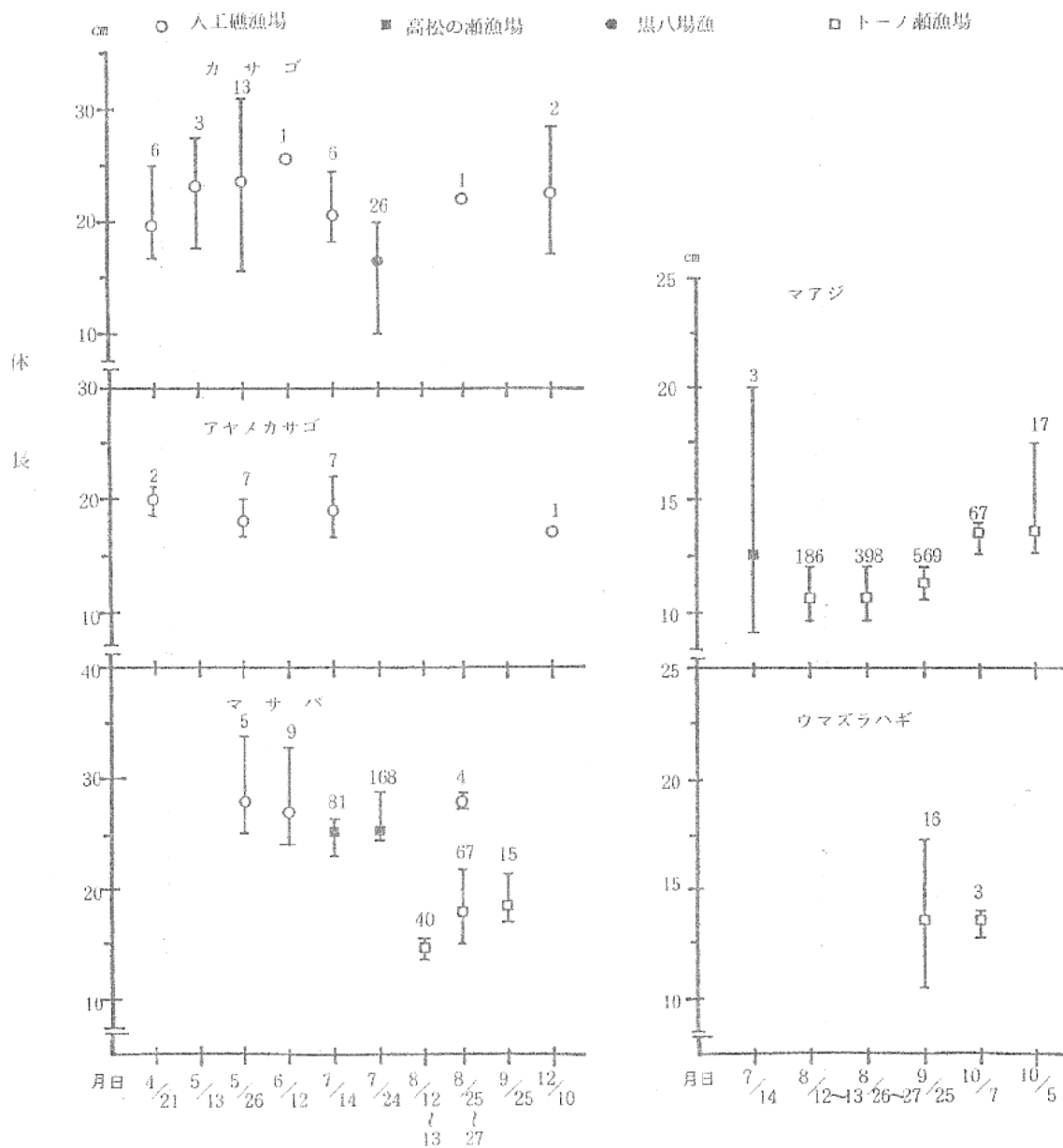


図3 魚礁礁漁場における釣獲頻度の高い魚種の体長範囲とその平均体長  
(図中の数字は尾数)

(52.3%)で最も多く出現しているが、体長23.0~31.0cmと大型魚はこの時期にのみ集魚していたものと思われる。マサバは5~8月の夏期に出現している。

(2) 高松の瀬漁場 (大型魚礁群)

同漁場における漁獲試験は、7月に2回実

施したのみである。その魚種は、マサバ主体で体長範囲は23.1~29.0cmと型が揃っていた。その他としてはイサキ10尾20.0~26.0cm, エソ2尾30.0~40.0cm, シイラ3尾29.8~35.5cm, ブリ仔1尾6.5cmを釣獲している。

(3) 黒八場漁場 (大型魚礁群)



当該漁場では、7月、12月に各1回実施したのみである。釣獲した魚種はウマズラハギ、カサゴが主でその尾数及び体長範囲は、ウマズラハギ78尾15.2~22.3cmでその差は小さい。魚礁度(川名 1959)の大きいカサゴ27尾は10.0~21.6cmの範囲で他にメバル1尾18.8cm キュウセン1尾21.6cmであった。

同漁場は昭和59年度に大型魚礁群によって整備され、前述の利用隻数は多くなっている。釣獲調査では魚種は4種と少ないがイサキ、ブリ、クロダイ、マダイ、ヒラメ等の高級魚が釣獲されている模様である。

(4) トーノ瀬漁場(大型魚礁群)

当該漁場では8月以降に釣獲調査を5回実施した。釣獲魚種は、10種類の出現をみて前述の3魚礁群と比して最も多い。表~中層魚はマアジ(体長9.7~17.5cm)の1,237尾で77.0%が圧倒的に多く、次いで、マサバ(体長14.8~22.0cm)の122尾7.6%、マルアジ(体長9.2~17.0cm)の115尾7.2%であった。

中~底層魚は、サッパ(体長9.2~12.8cm)81尾の5%、ウマズラハギ19尾1.2%、他にヤマトカマス、キュウセン、メバル等であった。

この漁場はアジ類が夏~秋期に多く集魚していることが判る。

参考文献

川名(1959)は魚礁に蟄集する魚を“魚礁度”大・中・小として区分している。これによると、一般に底魚、岩礁性魚類が大・中に、アジ・サバ・ボラが小に、それぞれ入れられている。

魚礁別に見た魚種

魚礁度	魚種
大	ウツボ、アナゴ、ギンボ、ハゼ、カレイ、ヒラメ、ホウボウ、カナガシラ、コチ、アンコウ、カサゴ、ソイ、カジカ、アイナメ、ホッケ、クジメ、ヒメジ
中	クロダイ、マダイ、ヘダイ、メイチ、キダイ、イサキ、アマダイ、ニザ、メジナ、カワハギ、イシダイ、アイゴ、イシガキダイ、フエフキダイ、メバル、メヌケ、タナゴ、ベラ、ブダイ、カンダイ、コロダイ、コシヨウダイ、ハタ、アラ、スズキ、ブリ、タラ、スケトウダラ、キンメダイ
小	アジ、サバ、ボラ

魚礁度—川名式、1959 魚礁の漁場学的考察

水産資源 5(2): 27~37 魚礁別に見た魚種

# ガザミ市場調査

菅沼光則・坂東正夫

## 目的

豊浜漁協所属の小型底びき網船で漁獲されたガザミの時期別抱卵状況，甲巾組成，漁獲状況を把握するため実施した。

## 方法

昭和61年4月から昭和62年1月にかけて，半月毎に計18回，甲巾，体重，性別，抱卵状況について調査した。

## 結果

抱卵状況を図1に，甲巾組成を図2に，半月毎のCPUEを図3に示した。

抱卵ガザミは5月前半から出現し，6月後半には盛期となり，9月後半には消失した。

CPUEの傾向は，60年に見られた8月の大きなピーク（100尾以上/隻・日）はなく，7月前半に一度増加するがその後すぐ減少し

9月後半から再び増加し，11月後半には最大となりその後急減した。11月におけるピークも18尾/隻・日程度小さいものであった。

甲巾組成では，6月前半から14cm級をモードとする前年後期発生群が漁獲され，7月後半もしくは8月前半から，11cm級以下の当年前期発生群が加わる形となった。その後10月前半からは，12cm級をモードとした当年後期発生群が加わり，12月前半まで漁獲が継続した。

今年のCPUEの傾向，甲巾組成からすると，60年後期発生群と61年前期発生群の漁獲が極めて低調で推移し，主たる漁獲が61年後期発生群に依っていたといえる。こうした傾向の年は，他県でも報告されているように漁獲量は伸びず，当漁協の底びき網のガザミ漁獲量は去年の15%弱と不振を極めた。

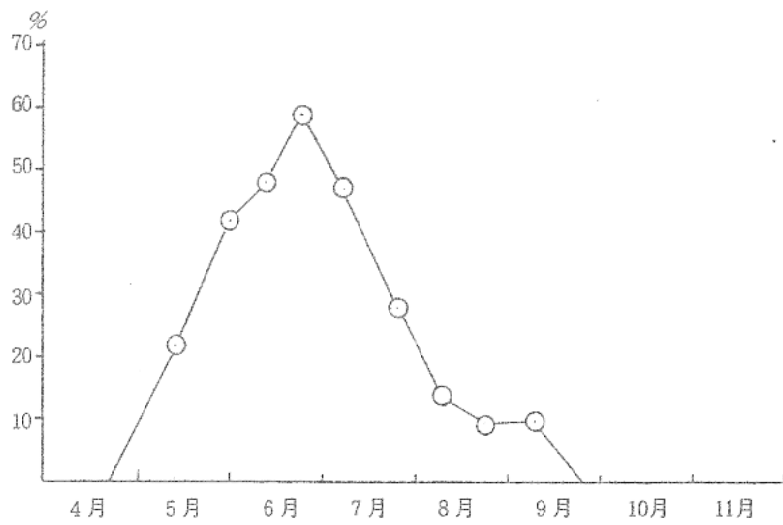


図1 ガザミ抱卵状況

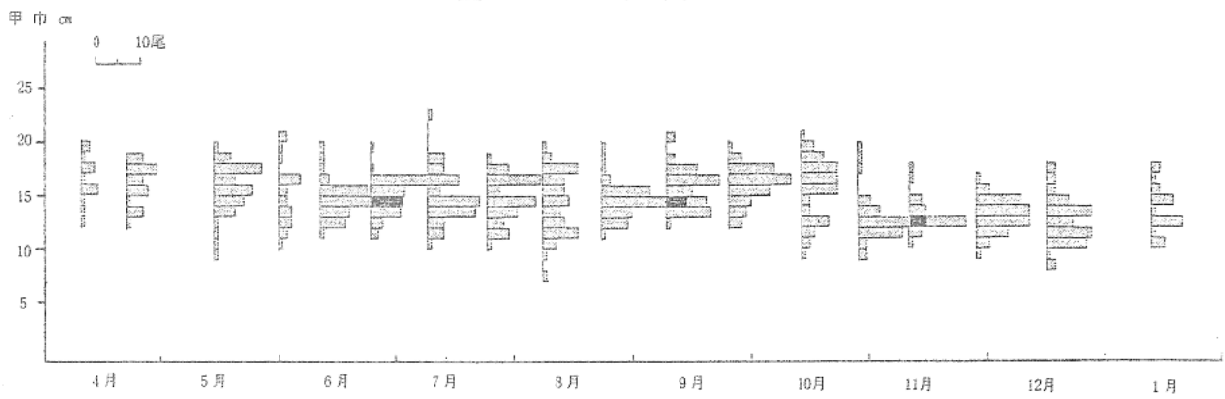


図2 甲巾組成

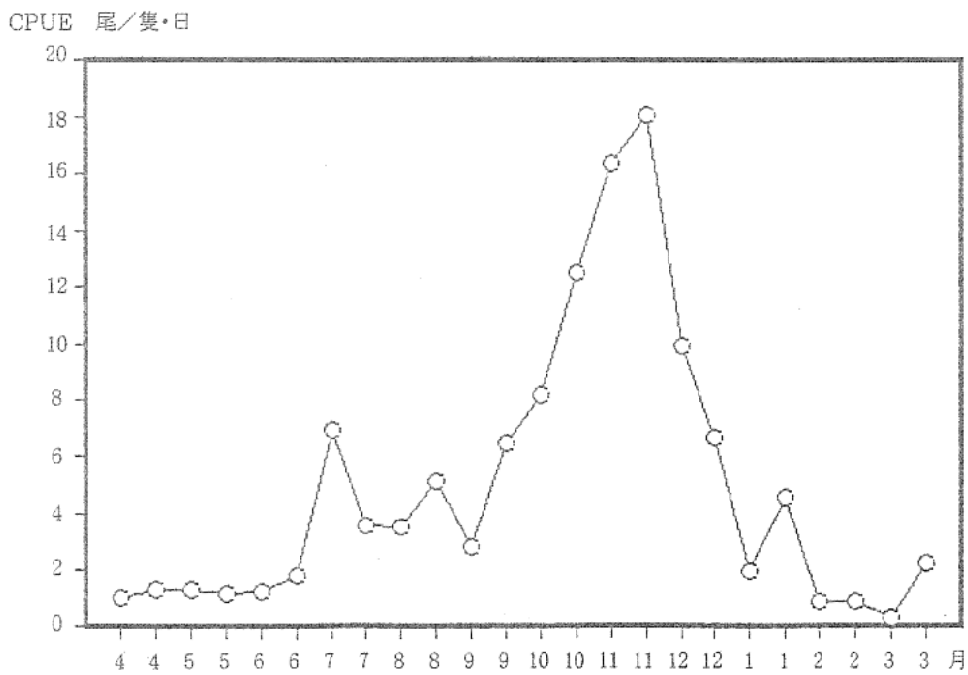


図3 底びき網によるガザミのCPUE

# 干潟域におけるガザミ天然群調査

菅沼光則・坂東正夫

## 目的

干潟域におけるガザミ天然群の生態（出現時期，生長，移動）を明らかにする。

## 方法

調査期間は，6月27日より11月25日までの計10回実施した。

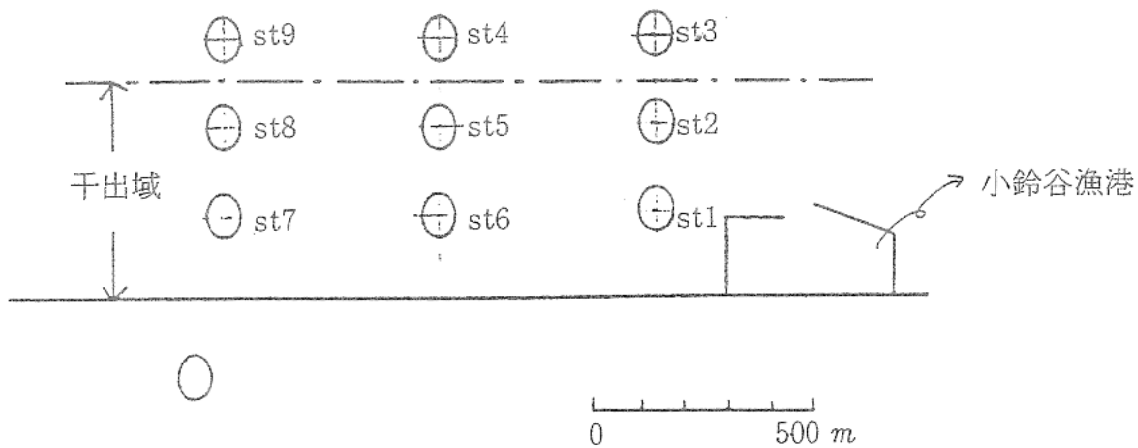


図1 調査場所

調査は図1に示した様に，常滑市小鈴谷地先の干潟域とその沖100mの0.6×1kmの区域内を対象とし，調査地点は9点とし，9～11月の3回については，St.3→St.9にかけての干出しない区域を3～5回追加調査した。使用した漁具は，開口部幅1mの貝桁網（目合9節）で，船外機船で曳網した。曳網距離は30m/1回をめどとした。

## 結果及び考察

調査結果を表1に，入網したガザミの全甲巾組成を図2に示した。

6月後半の第1回調査では，60年後期発生群と61年早期発生群が混在し，7月の調査では61年発生群のみとなった。6～8月では，ガザミの入網は0～0.44尾/1曳網と少なく，特に7月後半から8月前半にかけての約1ヶ月間は甲巾20～40mmサイズのガザミは全く入網しなかった。8月後半の調査では，20mm以下の定着初期のガザミが入網し，9月には

表1 干潟調査結果

調査回	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
調査月日	6/27	7/15	7/28	8/11	8/27	9/11	9/25	10/14	11/13	11/25
入網尾数	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
St. 1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
2	0	0	0	0	2	7	1	1	0	1
3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
4	1	0	0	0	0	0	0	0	4	0
5	2	0	0	0	0	10	0	1	0	0
6	0	0	0	0	0	1	3	2	0	0
7	1	0	0	0	0	1	3	1	0	0
8	0	0	0	0	0	4	6	5	1	0
9	0	1	0	0	0	0	6	3	3	2
St.→St. 9 (回数)	1(1)						9(3)	15(5)	10(5)	
St. 1～St. 9の入網率 (尾数/1 曳網)	0.44	0.11	0.11	0	0.22	2.56	2.11	1.44	1.00	0.33

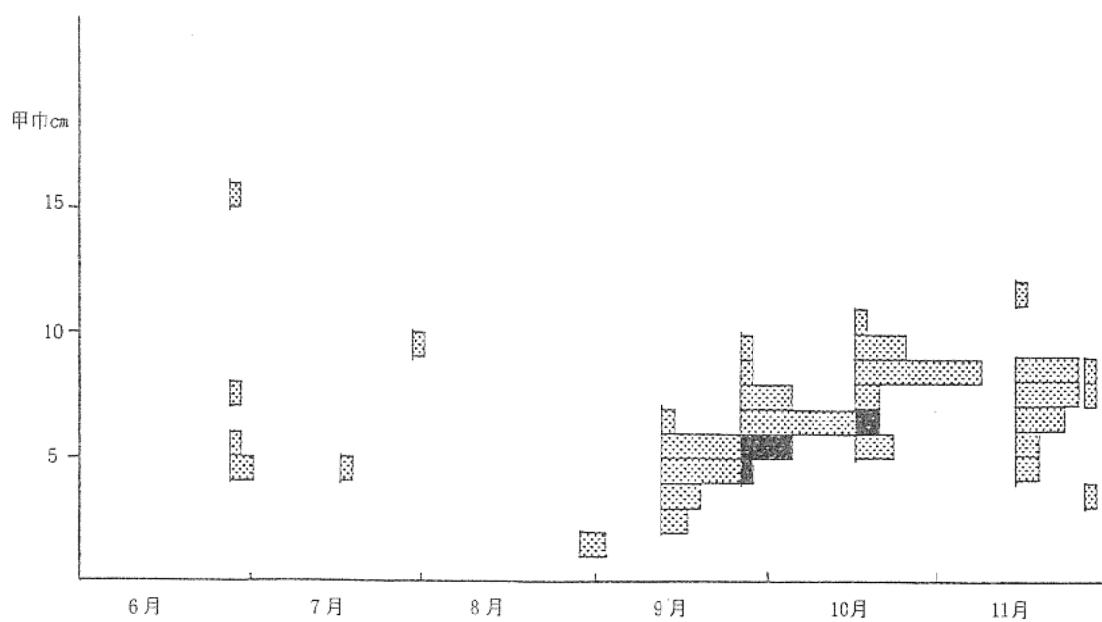


図2 甲巾組成

2.11 ~ 2.56尾/1曳網 と高い入網率となった。その後10月に入ると入網率は漸減し、11月前半には甲巾 90 mm 以上のガザミは調査域より移動し、11月後半には、入網率も激減した。

昭和61年の小鈴谷地先の干潟域では、主として7月に出現するガザミ前期発生群が極めて少なく、8月後半からの後期発生群が主力であった。この群は生長し、甲巾 90mm 以上

になると沖合の漁場へ移動したものと思われた。また豊浜漁協所属の小型底曳網船のガザミ市場調査における、8月~9月にかけての不漁、10月後半から12月前半にかけての甲巾 100~130 mmのガザミのまとまった量の漁獲等の調査結果は、この干潟域でのガザミ出現状況とよく対応していた。

# ガザミ 標 識 放 流

菅沼光則・坂東正夫

## 結果

伊勢湾におけるガザミの生態，特に移動を明らかにするため実施した。

## 方法

昭和61年10月27日～11月19日までの11回にわたり，アンカータグ方式の標識ガザミを伊

勢湾に放流した。標識方法は，昭和59年度報告の“ガザミ標識試験”によった。ガザミは脱皮状況等を調べるため甲巾測定と個体識別の番号をアンカータグに付した。

放流は鬼崎漁港地先，常滑漁港地先，富具崎港地先の3ヶ所で実施し，尾数は鬼崎309尾，常滑28尾，富具崎338尾の計675尾であ

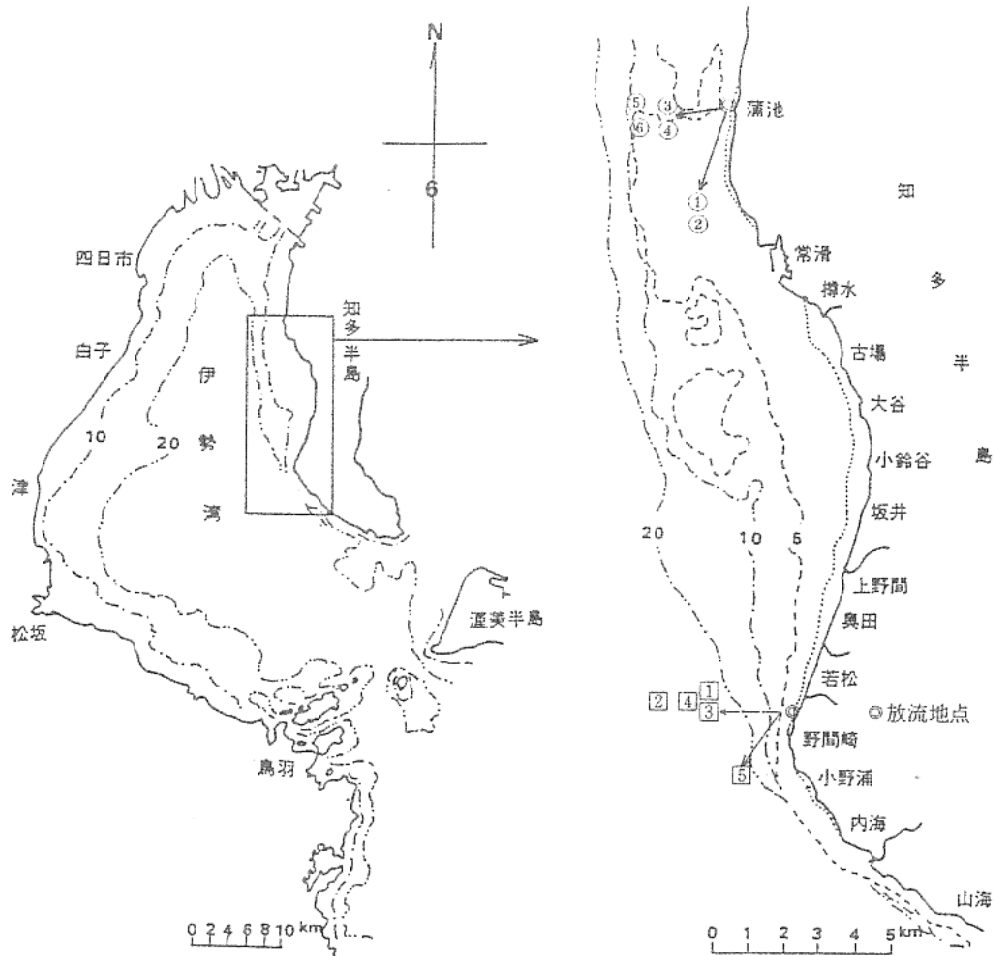


図1 放流場所と再捕位置

った。放流ガザミは鬼崎漁協，豊浜漁協所属の小型底びき網船の漁獲物を用い，甲巾範囲は9～15cm，モードは11，12cmであった。

### 結果

再捕は，昭和61年11月4日から始まり，11月と翌年3月が主であった。3月末までの再

捕尾数は19尾，再捕率は2.2%であった。

再捕の場所は図1に示した。年内はすべて小型底びき網で再捕され，場所は放流地点より2～3km沖，水深20m線であった。3月以降は，浅海部での操業が活発となり，水深5m線でも漁獲され始め，最大5km南下した個体もみられた。

表1 再捕状況

再捕年月日	再捕場所（水深）	漁法	放流場所	甲巾(cm)	経過日数	性別	備考
61.11. 4	野間沖2,000m（20m）	小型底びき網	富具崎港	12.3	4	♂	①
11. 5	" 3,600m（27m）	"	"	10.5	5	♀	②
"	野間沖～蒲池沖	"	"	11.2	5	♀	
"	"	"	思崎漁港	12.0	9	♀	
"	"	"	"	10.5	9	♀	
11. 7	"	"	"	10.5	11	♀	
11.14	野間沖2,000m（20m）	"	富具崎港	12.6	13	♂	③
11.24	不明	"	"	12.3	20	♂	
11.25	野間沖2,000m（20m）	"	"	13.5	25	♀	④、脱皮
12.11	不明	"	"	不明	42	不明	
"	"	"	思崎港	"	27	"	
62. 3. 6	野間崎	"	富具崎港	12.0	126	♀	
3. 9	常滑沖1,700m（5m）	"	思崎漁港	12.0	116	♂	①
3.29	小野浦沖1,000m（20m）	"	富具崎港	11.0	144	♀	⑤
4. 3	常滑沖1,700m（5m）	"	思崎漁港	12.4	140	kℓ	②
4.16	思崎漁港沖700m	カニカゴ	"	13.5	159	♀	③
4.20	" 1,000m	源式網	"	11.0	158	♀	④
"	" "	"	"	12.5	152	♀	⑤
4.21	" 700m	カニカゴ	"	12.5	159	♂	⑥



## (2) 漁業調査船「海幸丸」運航

小柳津伸行他海幸丸乗組員

### 目的

漁海況予報事業，渥美外海漁場調査（浮魚底魚，魚礁，魚群探索，イカ），遠州灘漁場開発調査事業，伊勢湾総合水質調査，沿岸重要資源調査（イカナゴ），その他（少年水産教室，親鰻放流，視察等）資料収集のため運

航した。

### 結果

昭和61年4月より昭和62年3月までの運航実績は表1のとおりである。



## 6 漁民研修所運営

### (1) 漁民研修所運営及び維持管理

佐藤 政

昭和61年度愛知県漁民研修所実績（月別）

月	研 修 項 目	開 催		参 加 者 延 人 員
		回 数	日 数	
4	水産業改良普及職員研修	8 <sup>回</sup>	5 <sup>日</sup>	26 <sup>人</sup>
	研究グループ研修	13	20	27
	水産技術交流研修	1	1	15
	小 計	22	26	68
5	水産業改良普及職員研修	6	4	11
	研究グループ研修	6	6	6
	水産技術交流研修	3	3	26
	そ の 他 研 修	1	1	28
小 計	16	14	71	
6	水産業改良普及職員研修	12	9	21
	研究グループ研修	4	2	26
	水産技術交流研修	1	1	2
	そ の 他 研 修	3	6	28
小 計	20	18	77	
7	水産業改良普及職員研修	10	9	25
	研究グループ研修	7	5	22
	水産技術交流研修	5	5	55
	そ の 他 研 修	3	18	64
小 計	25	37	166	
8	水産業改良普及職員研修	4	3	22
	少年水産教室夏期講座	1	3	48
	研究グループ研修	4	4	11
	水産技術交流研修	5	4	86
	そ の 他 研 修	2	8	16
小 計	16	22	183	

月	研 修 項 目	開 催		参 加 者 延 人 員
		回 数	日 数	
9	水産業改良普及職員研修	3 <sup>回</sup>	3 <sup>日</sup>	9 <sup>人</sup>
	研究グループ研修	6	3	35
	水産技術交流研修	4	4	65
	漁業士研修	1	1	10
	その他研修	3	5	46
	小 計	17	16	165
10	水産業改良普及職員研修	8	8	20
	研究グループ研修	17	7	51
	水産技術交流研修	2	2	41
	小 計	27	17	112
11	水産業改良普及職員研修	6	6	10
	研究グループ研修	5	5	5
	その他研修	1	2	8
	小 計	12	13	23
12	水産業改良普及職員研修	7	6	15
	研究グループ研修	2	2	3
	小 計	9	8	18
1	水産業改良普及職員研修	7	6	29
	研究グループ研修	3	3	5
	小 計	10	9	34
2	水産業改良普及職員研修	9	7	17
	研究グループ研修	11	7	28
	その他研修	1	4	18
	小 計	21	18	63
3	水産業改良普及職員研修	9	8	14
	研究グループ研修	18	11	32
	水産技術交流研修	2	2	2
	その他研修	1	2	2
	小 計	30	23	50
合 計	水産業改良普及職員研修	89	74	219
	少年水産教室夏期講座	1	3	48
	研究グループ研修	96	75	251
	水産技術交流研修	23	22	292
	漁業士研修	1	1	10
	その他研修	15	46	210
	小 計	225	221	1030

昭和61年度愛知県漁民研修所利用人員

62年3月31日現在

項 目	利 用 実 績			
	回 数	人 員	日 数	参加者延人員
水産業改良普及職員研修	89回	219人	74日	219人
少年水産教室夏期講座	1	16	3	48
研究グループ研修	96	251	75	251
水産技術交流研修	23	292	22	292
漁業士研修	1	10	1	10
その他研修	15	124	46	210
計	225	912	221	1030

## (2) 漁 民 相 談

本 場 日比野 光  
尾張分場 榊原邦夫

### 目的

近年、養魚に関する相談、或は水質悪化に伴う諸問題、その他水産全般に関する相談が年々多くなっている。相談内容は魚介藻類の養殖技術から魚病、公害に至るまで多種多様であり、水試の研究課題では対応しきれないので漁民相談員（非常勤嘱託）を配置して広く内外の情報、資料を集め、巡回指導も行って相談に対処する。なお、昭和61年度から新たに尾張分場にも相談員が設置されその業務

が強化された。

### 方法

漁民相談の窓口業務は、本場では昨年と同様、毎月第1水曜日は豊田事務所、第4水曜日は足助事務所、および第2水曜日は内水面分場鳳来養魚場とし、それぞれ管内の山間地の養魚場を巡回して内水面関係の相談を担当した。その他の相談業務については、本場と尾張分場において、電話、文書、および来訪

者による相談に応じた。

本 場

昭和61年度 漁民相談実績表……本場

項目	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	摘 要
水田利用再編成対策								1	1					2	タニシ、ドジョウ
淡水魚養殖		9	6	7	12	5	0	7	0	7	0	0	5	58	ニジマス、アマゴ、イワナ アユ、モロコ、カマッカ カジカ、スッポン ドジョウ
海産魚養殖		3	5	1			3	1	2	4	5	2	3	29	カレイ、ナマコ、ボラ クロダイ、スズキ
海藻類養殖		19	3	5	37	17	46	123	12	9	12	26	45	354	ワカメ、オゴノリ、アラメ、ノリ (糸状体、芽付検鏡)、病害診断
貝類・えび類		6	3	7		2	3	3	6	10	1	4	2	47	アサリ、ミル貝、オニテナガエビ クルマエビ、アワビ、ゴカイ
公害関係		3	2	3	6	7	2	4	4	7	8	2	0	48	シジミ、ヌメリゴチ、リンゴ貝 コンクリートのアク、公害防止装置
種苗幹旋						2								2	キンギョ、タニシ
流通加工		6	3	1	2	1	1	0	0	0	2	4	0	20	脱水シート、シラウオの加工 ウニの保蔵、アオサの成分
へい死原因対策							4							4	ナマズ、ニシキゴイ
小 計		46	22	24	57	34	59	139	25	37	28	38	55	564	
その他		5	7	1	1	2	45	5	2	5	0	5	11	89	文献資料収集、提供 見学者案内、少年水産教室ほか
巡回相談		9	11	35	10	5	11	9	4	14	4	0	7	119	鳳来養魚場、豊田、足助事務所 管内ほか
合 計		60	40	60	68	41	115	153	31	56	32	43	73	772	

	来訪者相談	電話通信相談	巡回相談	合 計
件 数	493名	160名	119名	772名

本年度の漁民相談は、昭和61年度漁民相談実績表…(本場)のとおり、巡回相談も含めて772名を取扱い、前年度の約11%増となった。その中、最も多いのは海藻類養殖関係で354名あり、9月中旬～11月上旬にかけてノリ種付に関連する貝殻系状体の成熟度判定、ノリ種付網の芽付顕微鏡判定、育苗期のツボ状菌感染診断、あるいは、2月～4月にかけて果胞子付後の貝殻の糸状体穿孔状況検査が多く、水試の藻類担当者に協力して対応した。次いで淡水魚養殖関係が58名でニジマス、アマゴなどの外にモロコ、カジカ、カマツカ、スッポンの新規養殖計画の相談などであった。また、貝類・エビ類関係は47件でアサリ、ミル貝、クルマエビなどの外、オニテナガエビ養殖の相談が目立った。公害関係は48名で矢作川河口14号地理立に伴うテトラポット、コンクリートのアクの影響調査(西尾漁協依頼)

一色町衣崎漁協地先に於ける育苗期のノリ芽流失原因調査などに協力して、ノリの培養試験を行った。

巡回相談については、足助、豊田事務所、および、鳳来養魚場を窓口として西三河事務所水産普及専門員、および鳳来養魚場の職員に協力して巡回した。山間地のニジマス養魚場では稚魚のウイルス性疾病(IHP)によるへい死が多く、また、藻菌類に属するイグチオフォヌスの寄生によるカビ病が散見された。これら疾患は一旦感染すると有効な対策がないので徹底した防疫体制の整備指導の必要性を痛感した。その他、6月には東三河事務所水産課の依頼により牟呂漁協内の糸状体の巡回診断、専技の行うノリ漁家の経営調査などに協力した。

なお、最近は、漁民以外の一般の人からも水産に関する問合せが多くなっている。

## 尾張分場

昭和61年度 漁民相談実績表……尾張分場

項目	月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	摘 要
漁 船 漁 業			2										1	3	魚礁関係漁業操業、他
海 藻 類 養 殖							1		1					2	旋肥実施
蓄 養 旋 設							1							1	淡水産エビ蓄養殖
栽 培 漁 業					5		2	113						120	種苗生産育成状況
流 通 加 工				1										1	産地市場水揚と流通
観 測 関 係						1		1	2	6	3	4	3	20	水温他、観測結果
そ の 他				3		6		11	1				2	23	水試見学、他
計			2	4	5	7	4	125	4	6	3	4	6	170	

漁民相談業務の円滑な運営を図るため、新たに61年度に水産試験場尾張分場に相談員が設置された。本年度の漁民相談は、実績表のとおり総数で170名であった。相談事項のうち、栽培漁業関係が120名（70％）で、この

内容は、管内小・中学生徒等による栽培漁業に関する紹介、相談が主で漁民以外の一般人からの水産に関する問合せが多かった。

来訪者相談150名、電話相談20名合計170名。